



ごはんと乾杯

前橋市立岩神小学校 5年

遠 藤 龍

東京に父と母と僕で遊びに行った。行きの新幹線の中で、通信販売の雑誌を手にとった父が、突然

「今度から釜でごはんをたこう。」

と言った。僕は、釜でたくごはんはどんな味だろうとワクワクした。

何日かたち、ついに釜が届いた。父はとても喜んでいて。釜は、黒くて丸くグローブくらいの大ささ。重いとう器で出来ている。こんなもので米がたけるのだなと不思議に思った。

次の日からさっそく釜でお米をたくことになった。たくのは父だ。おいしいごはんがたけるのを、楽しみに待った。しかし、うまく行かずに下の部分がこげてしまった。全部捨てるのはもったいないし、父がかわいそうなので、こげたところは除いてみんなで食べた。こげていないところは、パリパリしていておいしかった。

次の日から、こげないように火かげんに注意して、タイマーを使うようにした。まず釜を火にかけ、タイマーのボタンを押す。十分くらいたつと、釜のふたがカタカタといって穴から泡が出てくる。お米がうれしそうにはねているみたいだ。タイマーが鳴ったら火を止め二十分間蒸す。すると、とてもおいしいほかほかのごはんが出来る。ごはん茶わんによそうと、ごはんがきらきら光って、いっそうおいしく見える。電気釜とは、全然ちがった。その日からずっと、夕ごはんは釜を使ってお米をたくようにしている。釜からカタカタという音がすると、もうすぐ夕ごはんという合図だ。

僕の家では、夕ごはんは家族三人がそろってから食べる。母が仕事で遅くなる時も、とてもおなかすいていても、全員そろうまで食べない。なぜなら、一人でも欠けると会話がはずまなかったり、さびしかったりするからだ。夕ごはんの時は、まず乾杯をする。今日あった出来事、例えば、

「剣道で強い子に勝った、乾杯！」

「かぜが早く治るように、乾杯！」

など、うれしい事もいやな事も乾杯する。いつもは、父はビールで母と僕は麦茶を飲む。でも、僕が剣道やテストでがんばると、甘酒を飲ませてもらえる。それから、今日あった出来事を、ごはんを食べながらみんなで話す。

乾杯すると、僕は家族とつながっているとを感じる。父が釜でたいたおいしいごはんを食べると、何があっても楽しい、良い一日だったと思う事ができる。元気に明日をスタート出来る気持ちになる。だから、家族みんなでごはんを食べる事は、自分にとってなくてはならない大切な事である。